

葦

第3号

発行所

大阪市東住吉区山坂5丁目
11番21号 TEL 06-699-8731

社会福祉法人
愛徳福祉会

皆様の投稿を
お待ちしております

新年を迎えるに

あたつて



理事長 梶浦 一郎

さる一月四日午前九時より大訓練室に職員一同を集め、梶浦一郎理事長より新年にあつての訓話が行われた。(要旨は次の通り)

皆様、新年おめでとうございます。昨年は雪の深い大変なお正月でしたが、今年も例年にならぬ暖かいお正月でした。本年はこのように明るい希望に満ちた年でありたいものです。

昨年は、多くの部門で非常に頑張つて頂いて無事、年を越すことができたわけで、厚くお礼を申し上げます。その成績につきましては後程スライドでお見せ致しますが、本日は、一つの施設という組織の力強さみたいなものをお話ししたいと存じます。



一つの施設という組織は、自然に発生したものではなく、何らかの目的を達成するために人間が作ったものであります。(この施設では「ボバース法を用いて脳性麻痺によりよい療育を」というものがあります)。その目的を達成することに

よって、存在する意義がある訳でして、目的を達成する効果が挙げられなくなれば何ら存在する理由がなくなるものです。しかし一方、存在することを願いながらも、だんだん衰退して行く組織も現実には多くあります。組織が衰退して行く条件というのは、外的環境要因と、内的要因とが必ずあります。極端な例として石炭産業のように完全に外的要因だけで消滅した組織もありますが、これは極めて例外的なことでありまして、大部分は外的要因と内的要因が絡み合っています。

どのような組織でも、社会で生きていく限り、外的要因の影響は多分に受けるものですが、それを内部的にうまく対応処理ができるかどうかによつて違いが生じる訳です。外的要因が少し変化した丈で簡単に衰退して行くのは、その組織自体が本来極めて弱かったからです。

昨今まで私は、何度も南大阪療育園を取巻く外的要因の変化についてお話ししました。つまり、出生数および脳性麻痺の発生率の減少、ポイター法の出現、多くの同種の施設が増加し、質的にも高くなったこと、或は高度成長から低成長へと経済が停滞し、それに伴う医療費抑制策の推進などです。これらの外的要因は、一つ一つどれを取りましても現実のものとして尤もなものであると認識して頂けると思います。しかしこの組織の存続発展に全責任があり、それを願う私達法人にとりましては、外的要因、つまり他人の責任にしてはすまされないので、だからこそ、全職員一丸となって頑強に頂くことをお願いして来りました。

このような外的要因は、すべての同種の組織には同じように影響する筈であります。それが困難なことであればある程、競争に打ち勝つて発展できるチャンスであると云われています。

「生命力」より「繁栄力」を

「生命力」と「繁栄力」という言葉があります。ある人の言葉から引用しますと、単に組織が生きていく丈というものを「生命力」といいます。社会福祉事業というものは、その最低の生命力が保証されているように見えます(しかし、この保障も、時代のニードの変化、効果の有無、経済条件などで左右されるものであって確固たるものではない)。だから、社会福祉事業は絶対滅びないという幻想が生まれる理由だと思えます。従つて、その最低の保障に甘えていくと、低いレベルで何となくはなして続いて行くでしょうがそれがそれでいいわけではありません。社会的条件が少しでも変化すると、それをもちに受け存在する危機にさらされます。

この「繁栄力」をつけるためには三つの条件が必要となります。(1)組織の体力、(2)体質、(3)気質、でありまして、(2)、(3)は今回は触れませんが、第一の体力について考えてみたいと思います。この体力というのは大きくわけて三つあります。第一は規模です。建物の大きさ、従業員数、総収入金額などです。第二は法人の持っている資産です。この資産というのは財務的なもので、これはお金の問題ですが、それよりも大事なことは、人の問題です。つまり従業員がどれだけ技術をもっているか、専門的な知識技術をどのように高め蓄積し、協力しているかということ、そしてそれが世間にどれ程広く知

これらの安定なしには、どのような議論をしても絵に描いた餅になつてしまいます。行政の援助は、最低の生命力の保障だけですし、それも、このような時代では当になりません。自分達の力で体力を作る必要がありますし、現実を作ることも可能であります。特に人の持っている技術力の向上、人材の育成、そして名声というものは誰からも与えられるものではなく、自分達で作るべきものであります。

一方「繁栄力」というのは、その組織が元来もっていた目的を強力に推し、しかも更に充実発展させる力を云います。

経営検討委員会発足

昭和六十二年九月七日に第一回の経営検討委員会が発足した。以来定期的に委員会を催し、その間各部署からの運営についての具体的な意見交換がなされた。今後とも活発な議論が予想され、新年度の園の運営に大きく反映されるものと期待

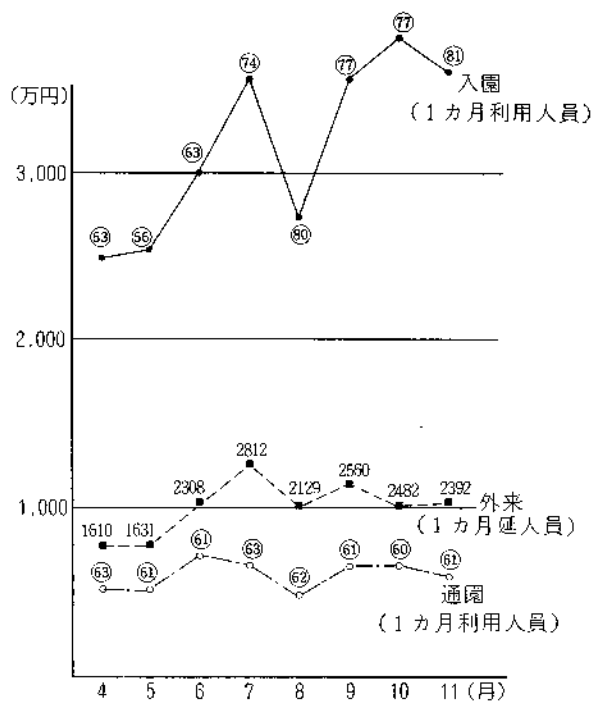
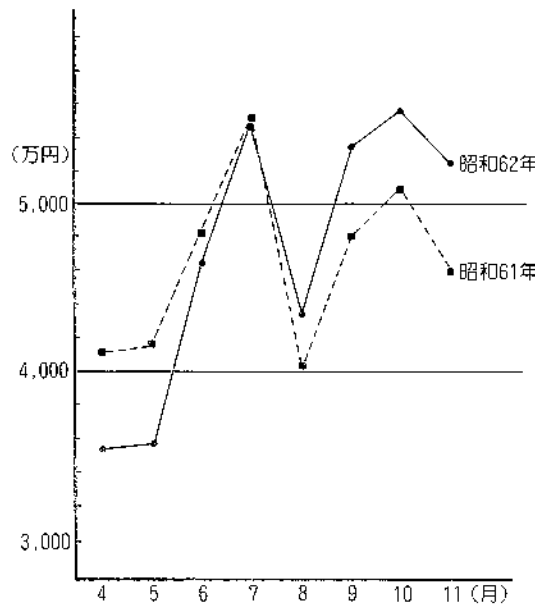
されています。委員長には、大下舜治園長。委嘱された委員は次の通り。佐々木哲、丸山浩一、津田たけ子、今川忠男、平川宏子、西脇美佐子、金光孝、谷田章、彦田龍兵、茂原直子、岸川容子、釜島英智代、小崎道代、与田和代、大槻敦子、中村ヨシ子、平尾久美子、浅倉美千代、坂原美津子。

ます。真の意味でのニードに合った対人関係であります。この施設に来る子供達は、すべて他の医療機関からの紹介患者であります。もし紹介された子供達が、もとの医療機関へ行ったときに、「本当に紹介してもらってよかった」と報告すれば、あと引続いて子供達を送ってもらえるでしょうが、少しでも苦情を報告するようであれば、二度と子供達は送ってもらえなくなります。

このように外的要因を解決する方法は、考えれば幾らでもありますし、そういう外的要因を克服するよう内的要因を作らなければなりません。

以上「繁栄力」について話しましたが、そのうちの「体力」について、昨年度の皆様の努力がどのように効果があがって来ているかについて説明します。

図①に六十二年度と六十一年度の本園における医療費総収入を示します。四月、五月は三七〇〇万でこのまゝで行けば年間に莫大な赤字になると心配しました。しか



し、七月以降になり、皆様が頑張って頂いて六十一年度を四〇五〇万程度上回る実績をあげました。このような後半の状態が持続できれば大いに体力はついて行くでしょう。

これを部門別にみますと図②に示すように病棟部門では、四月、五月に比べて九月以降は約一〇〇万も上廻り、昨年よりも五〇六〇〇万上廻っています。

訓練部門の外来収入は昨年より

も毎月三〇四〇万上廻っています。通園部門は、五〇六〇〇万を維持し、昨年より下廻ってはいませんが、このように各部門がそれぞれ、努力して頂いた結果、すべての部門で昨年を上廻り、その結果として経営が安定して来ております。

法人としても、また皆様も、いろいろな思いは沢山あると思います。例えば建物をもっと良くしたい、駐草場を作りたい、研究室を作りたい、研究、研修費をもっと多くもちたい、処遇も改善したい等、それらは施設の体力が十分つけば実現できます。昨年の後半のような状態が力に充分つく可能性があります。昨年の実績でもわかるようにこれは決して夢の話ではなく、現実に行けることでもあります。

組織というのは、出来て時間がたちますと、本来の目的が見失われ勝ちです。職員各人がもう一度原点にもどって子供によりよい療育をとって本来の目的に向ってプロの集団として技術を磨き、具

体的に今、子供達に何をすべきかを追求して行きますと、必ずそれは還元されて来ます。そのことが結果として法人の基礎体力を作ることになり本当に力強い繁栄力となるものです。昨年の皆様の御努力に感謝すると同時に今後の活躍をおねがいする次第であります。

民生委員さんの善意で 手作りのバギー置場新設 ～JR鶴ヶ丘駅に～

懸案となっていたJR鶴ヶ丘駅に東住吉区民生委員会、南田地区民生委員会、JR鶴ヶ丘駅のご協力により昭和六十二年九月から上りホームにも増設されました。

これで、従来の下りホームの置場とともに上下線の利用が可能となり、利用者から好評を得

海外研修に参加して

訓練部 茂原直子

ロンドンのポバースセンターで研修したのは、去年の四月十三日から十二週間でした。世界各地からポバースコースに集まったPTやOTと出会えたことや、OTのミセスマーリーの指導のもと、ポバースセンターでOTを経験したことは、自分がこれからOTを

南大塚駅高層
八号一専用車庫

この便利なバギー置場の使用方法を知らないお母さんがおられたらどうぞ知らせてあげてください。

上下線のバギー置場に

再開することができました。ポバースセラピストが世界各地で活躍している現実や、国を越えても共通の基盤で話しあえることは新鮮な驚きでした。中核性の発達障害という困難な障害をかかえた子どもたちに自分たちが専門家として何をすべきか、どうして高めあっていくのか、この園で行われようとしていることが、海外でも充分通用する内容につながっていることを感じました。またこのような長期の研修が許されるということは、外国でもそんなにあることではないことも知り、大きな機会が与えられたことに感謝するとともに、さらに次の機会をつかむことを励みに、これからも研鑽してゆきたいと思っております。

ありがとうございます。

は、園のバギーが十台ずつ置いてある。園の行き帰りに気軽に利用してもらって下さい。帰るときは来た時の反対側の置場に必ず返納しておいて下さい。

1987年度社会福祉法人・愛徳福祉会新人職員研修プログラム

Table with 7 columns (dates from 4月6日 to 4月11日) and 7 rows (times from 9:00 to 17:00). It details the schedule for a training program for new staff, including topics like 'Research Program Orientation', 'Neurological treatment approaches', and 'Child development theories'.

新入職員 研修会開催

—12名参加—

4月6日から11日までの一週間をかけて、新入職員12名を対象に研修会が開催されました。これは従来の療育技術講習会に加えて、社会人としての心構え、療育の基本的概念の職員研修を盛りこんだものです。そこで、外来講師として、大阪

市立中央児童相談所々長西野孝氏、天王寺病院事務局長 大久保才一氏に御講演をいただきました。さらに理事長、常務理事、園長、あさしお・ゆうなぎ園長にもそれぞれ



園内研修会 8月・12月に開催
第九回
昭和六十二年八月八日(土)午前九時〜午後十二時三十分。
演題 ▲火災・防火に関するお話
丸山事務部長
▲通園保育のとりくみ―集団の中で育った中等度重症型四肢麻痺の事例について―通園部保育 三宅正恵

「はじめに」
医療や福祉をとりまく環境は、あまりにも厳しい。「これからどうなる日本の医療と福祉」という展望の前に、現実の課題として、「これからどうする日本の医療と福祉」という、せっぱつまった問題がある。そこでみなさんは、このたび何かのこころで当地に就職されたのでありますが、さて新職員として心得ていただきたいことはいくつかの中で、欠くことのできないものとして、組織の理解と人間関係があります。

障害児と親子関係について

- ① はじめに：障害児とは
② 障害児をもつ母親たち
③ 母親をささえる家庭（家族）
④ 医師とのかわり
⑤ 訓練のこと（療育のこと）
⑥ 保育のこと（保護のこと）
⑦ 障害児の見方
⑧ 親の姿勢
⑨ 父親のこと
⑩ 障害者の声
⑪ 発達と関係効果
⑫ まとめ

職場における人間関係

- ① 施設をとりまく環境（どんな環境におかれているか）
② 組織の理解（自分の位置はどこか）
③ 一般企業とどう違う（企業の本質はあてはまらない）
④ 四者のよろこび（このよろこびをいかに調整するか）
⑤ 医の始動（患者の中心の役割）
⑥ 医療・福祉の個性と特殊性（原始的サービスの積み重ね）
⑦ 職場における人間関係（人間関係がどのように作用するか）
⑧ 職業についての考え方（生きかた、食むかた）
⑨ 就職で何をつかまたいか（世に貢献、自己修練、自己実現の意識の表明）
⑩ 働く者の共通の心理（快適な職場と経済の安定）

「おわりに」
人間と職務を組織的に結びつけて、協働意欲をたてるには、感情に左右されやすい人と人とのコミュニケーションを通して、よい関係を築くことが明らかな職場に連なるものである。特に処遇対象者とその家族ならびに職員間の人間関係も含めて、この機会に再認識したいものである。

中学校養護学級が開設されて 満一年を迎える

多年にわたり懸案であった、大阪市立田辺中学校の分教室が、昨年四月から当園内に開設されて早くも、満一年を迎えることになった。

あの開級式当日は、新しい教室の中央に希望と緊張に顔をほころばせて、車椅子に乗った四人の中学生が、父兄にともなわれて、校長先生、法人理事長、園長、市の関係課長等から祝福を受けた思い出の日である。

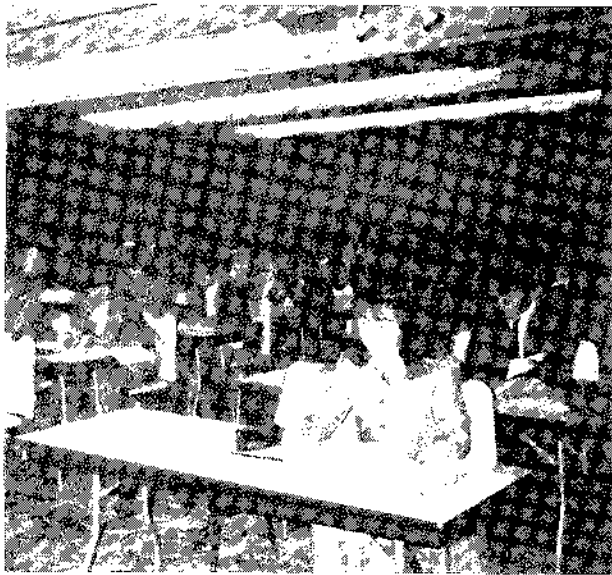
それから、この一年間に温かい先生の指導を受けた実児童数は八名である。



開級式の一コマ

「中部・近畿ブロック肢体不自由児施設 医療・看護部会」 当園主催で開催 !!

昭和62年11月26日、27日両日にわ



熱心に聞き入る参加者

たって、なにわ会館で医療・看護部会が開かれました。参加施設数

学会発表

—訓練部—

▲昭和62年2月7日
第2回大阪府作業療法士学会
(大阪市)

演題：痙直型両麻痺児に対するアクトイビティの治療的応用
—第2報—
渡辺 薫

▲昭和62年2月15日
大阪府理学療法士協会障害児研究部分科会(大阪市)

演題：ダウン症児の理学療法
—症例検討③—
大田 玲子

▲昭和62年4月4日～5日
18、参加人数約80名で、当園からも大下園長以下、16名が参加しました。発表演題数は20で各施設から、ユニークな研究や取り組みが報告されました。

当園からも5演題が発表され、病棟部門、松浦、谷川、岸川、訓練部門、稲垣、湖ノ上が発表しました。

2日目の午前の部の共通のテーマでの話し合いの場では共通議題として、「看護婦の勤務体制と児童の日課について—食事介助を中心」がとりあげられ、まず当園看護婦岸川氏の報告があり、その後、各施設から、食事時間、食事介助の必要な児童数、食事介助に入る職員数、工夫点等が報告され

日本ボバース研究会総会
演題：痙直型両麻痺児(6歳)に対する作業療法
渡辺 薫

▲昭和62年5月14日～15日
第22回日本理学療法士学会
(神戸市)

講演：日本における理学療法の独創性—治療技術の立場から
今川 忠男

▲昭和62年6月11日～12日
第21回日本作業療法士学会
(金沢市)

演題：脳性麻痺児に対するアクトイビティの治療的応用
岸本 光夫

▲昭和62年10月8日～9日
第22回日本理学療法士協会全国研修会
講演：プレスピーチの評価と治療
—口腔顔面機能障害に対するアプローチについて—

ました。これらの内容は、今後、各施設の取り組みの一資料として役立つものと思われま

26日の夜は懇親会が開かれ参加者は、発表時の緊張した面持も忘れ、カラオケで得意の喉を披露していました。

来年度は富山県で開催される予定です。来年度以降も、この医療・看護部会が充実、発展してゆくよう期待したいものです。



今川 忠男
▲昭和62年10月15日～16日
第32回全国肢体不自由児療育研究大会(京都市)

演題：脳性麻痺児の整形外科的手術後の理学療法—痙直型四肢麻痺児の症例を通して—
鶴田 ゆかり

▲昭和62年11月8日
第27回近畿理学療法士学会
(草津市)

演題：神経発達学的治療アプローチの効果—重心計を用いての症例報告—
海瀬 一典

▲昭和62年11月26日～27日
中部近畿ブロック肢体不自由児施設医療看護部会(大阪市)

演題：年長アトピー型脳性麻痺児のADL改善のための作業療法
湖ノ上 小百合

演題：神経発達学的治療アプローチにおける手荷の位置づけ
稲垣 勝弘

—看護部—
▲昭和62年10月15日～16日
全国肢体不自由児施設療育大会
演題：中等度痙直型アトピー型児の日常生活介助の実例
—実例を通して—
金島 美智代

▲昭和62年10月29日～30日
中部近畿ブロック肢体不自由児施設生活指導部会(大阪市)

演題：保育における子供への働きかけと変化
中野 恵里

▲昭和62年11月26日～27日
中部近畿ブロック肢体不自由児施設医療看護部会(大阪市)

演題：重度四肢麻痺児の遊びを考える
谷川 定子

演題：ADLのチェック表の検討を試みて
松浦 智恵美

演題：看護婦の勤務体制と児童の日課について(食事介助を中心に)
岸川 容子

—ゆうなぎ園—
▲昭和62年8月4日～7日
第35回盲ろうあ難聴幼児施設全国大会
演題：対人関係に問題のある聴覚障害児について
原 順子

—医局—
▲昭和62年6月27日
日木リハビリテーション学会
演題：日波による筋緊張の評価
原 田 武雄

▲昭和62年7月4日～5日
第12回日本足の外科研究会
演題：脳性麻痺児の足治療について
佐々木 哲

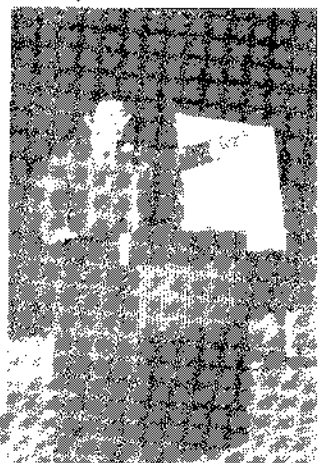
▲昭和62年11月14日～15日
第4回日本障害者歯科学会
演題：精神発達遅滞の歯磨きⅢ
演題：脳性麻痺児の摂食障害Ⅲ
演題：脳性麻痺児の体位、ボバースアプローチの応用Ⅱ
演題：障害児の手指機能とBIL
林 昌司

「特別講演」

社会福祉施設をめぐる
状況と展望

大阪府立大学社会学部

助教授 小室豊允氏



講演中の小室豊允助教授

☆アメリカの情勢

①アメリカの歴史的時期とエキサイティング・ウィーク
(1) I N F が日本に及ぼす影響
I N F 全廃によって各国の平和維持に対する負担が増加することを日本に強く警告

(II) レーガン経済学の敗北による増税と老人医療費の削減
減税による経済改革にもかかわらず、三〇兆ドルの国家財政赤字と、二〇兆ドルの貿易赤字のため、三六億ドルの増税案が議決され、メデケアの二億ドル削減も決定され、福祉切り捨ても認めざるを得なくなってきた(福祉削減政策)。

②アメリカの考える解決策
アメリカは、これらの赤字を西ドイツと特に日本に肩代わりさせようとしている。その例としてドルを安くすることで、この一年に一〇兆円を肩代りさせた。

③日本に対する影響
六三年度は軍事的、経済的な圧力は増大し、日本及び企業への風当たりが増々強くなることを拒めない状態となる。

☆日本、諸外国の社会保障

①日本の国家予算の内訳(S 62)
総額五兆四兆円のうち赤字国債の利息十一兆五千億円と国税の戻し分十一兆五千億円を差し引いた額三兆兆円が、実際に使用できるお金である。

このうちの約1/3 (十兆五千億円) が社会保障に使用されるお金である。(即ち国家予算の1/3 が社会保障に使わねばならない。)

②日本における社会保障費と国民負担率
社会保障費(医療、年金、生活

保護、社会福祉、失業対策費)には、G・N・P (三二〇兆円) の一五%を使用し、国民負担率は昭和四五年に比較して四倍となってきた。

(I) 日本の医療費について
今年度使用した国民の医療費の総額は、一七兆円で、その内1/3強は老人医療費であり、この事は、財政負担が大きいことを意味し、今後より増加することを推測させる。

③アメリカの現状
アメリカにおいても、国民負担率は増加傾向にあり、加えて老人医療費(及び年金費)の老人増加に伴う増大で、国家財政赤字(三〇兆ドル)が膨脹し、社会保障費の二億ドルの削減を決めた。しか

し、今後もこれらの傾向は強まり、累積赤字は、さらに伸びると予想される。

(I) アメリカの医療費対策

一九八三年社会保障法改正を行い、D・R・G 医療制度を導入した。D・R・G 制度は、五一一項目の診断群に価格をつけ、それ以上かかったものについては、保険制度を適用しないという制度である。

④近年の諸外国の情勢
イギリス、スウェーデン、オランダ等も社会保障に対して見直し、削減の方向に。

☆社会保障制度が削減等、きびしくなってきた原因
社会福祉は、高税率者(高所得)と低税率者(低所得)の差が、大きいことで成立する。しかし現在では、昔に比較してその差が小さくなり、費用の捻出が困難になってきている。

①日本の現状
日本では、高額所得者と低額所得者の比率は、一・九三倍で前者が依然として多くなっている。しかし、高額所得者は四〇〜五〇才の高年齢層で、しかも扶養者(親子)家のローン等で経費も大きい(新貧民) 故に、増税に対して過敏な反応を示す傾向にある。一方マクロで見ると、高額及び低額所得者の格差減少、加えて平均寿命延長による老人医療費年金等の老人費用の増大等の理由により、高い社会保障は成立し得ない現状となってきた。

②日本の社会保障の推移
昭和四八年三木内閣には、福祉ブームの到来と言われたがこの時代は高度経済成長でお金もあり、老人も少なかった。しかし、老人の増加による老人福祉費、医療費の増大、加えて経済状態の悪化、

税収の低下により社会保障に必要なだけの費用の確保が困難となってきた。

☆日本の社会保障制度の改革

日本においても社会保障が財政を圧迫する状態にあるため、それぞれの制度が、改革されつつある。

①医療費の改革
第一に薬価基準の引き下げ、健康保険の一部自己負担を行ったが、一年間に一兆円づつ増加していった。そこで、

(I) Medical Unit System
昭和六二年十二月医療法を改正し、ある医療圏内の医療の需要を測り、それに適した医師、病院数を算出し、それ以上病院の新設は認めないとした。現在では、病院を持っているのが既得権となっているのが現状である。

(II) 国民健康保険の国家と市町村負担の割合の改革
国民健康保険の負担に新に都道府県を参加させた。又、地域格差是正制度という各地域ごとに決められた、標準医療費からの超過分は、四庫補助の対象としないという制度を設けた。(R・G・B 制度国保導入化)

②年金費の改革
基礎年金制を導入し、改革前に比して老婦の場合、四万円削減となつてきている。(月額)

③生活保護費の改革
生活保護費は一兆四千億円かかっており、現在資産を持つていない人に対する給付についての論議が始まっている。又この費用の六割が医療扶助費で、その内の六割が精神障害に対する給付であるため精神衛生法を精神保健法と改正した。これにより精神障害者の退院を測り費用の削減を測っている。

④社会福祉サービスの改革
中心は、社会福祉施設であり年間一兆五千億円の経費を要する。

これは今後老人の増加に伴い増大する傾向にある。(老人ホームの費用は三千四百億で、十年後三兆円と予測されている。)

(I) 老人保険施設の導入

現在の老人ホームの経費は九割以上税金であるため、今後の老人増加に対応していけない。そこで、アメリカのナーシング・ホーム制を導入し、医療の保険より支出するようにした。(福祉費から医療費への割込み、国負担九割三割)

(II) 措置制度の改革
昭和六一年十二月一九日整理合理化法を成立させ、措置費の事務を市町村に移行すると共に、国の負担率を八割から五割とし、差額を本人、扶養者、市町村負担とした。

☆社会福祉にとっての焦点(措置費の行方)
措置費の内訳は、一兆五千億円の内、一兆円が保育所、三千四百億円が老人ホームで障害関係施設の占める比重は少ない。

①保育の措置費
現在では、保育所通園家庭の方が、幼稚園通園家庭より所得が三割高い。しかし、保育所の税金負担は八割と高く幼稚園は、ほとんど税金負担がない。この現状から見直しは必至と思われる。

②老人ホームの措置費
現在は、三千四百億円であるが、将来三兆円以上になる可能性が大きい。このため厚生省は、昭和六二年十一月月中旬に措置制度見直しのプロジェクトチームを結成し、削減に向けて動いていると思われる。

③障害児者の措置費
現在は措置制度が、どうなるかはわからないが、非常に微妙なところである。(特に肢体不自由児は、その数が減少しているため) ☆障害児者の動向と障害福祉費の流れ

障害者は、現在増加傾向にある

がそれは高齢者によるものである。障害児特に肢体不自由児は、医療の発達と共に減少傾向にある。一方精薄者の高齢化による精薄者の増加傾向がある。このことから、減少傾向にある肢体不自由児の障害福祉費が、高齢精薄者あるいは、高齢障害者に移行する可能性は十分ある。

☆処遇の問題

処遇としては、治療、介護教育が合わせて行われるのが最も良い。しかし、行政財政の理論から見ると、別々に行わざるを得なくなる可能性があるかもしれない。故に子供達にとって本当に必要なものは、三者一体となったものだという理論を身に付け、又そういう処遇をしっかりと実践し、外部に納得してもらいように、支持してもらいように、訴えていかねばならない。

(この記事は、講演のなかから抜粋して編集しました。)

ポランティア活動報告

現在、本園ではボランティアとして次の方々からご奉仕頂いております。厚くお礼申し上げます。
◇鶴ヶ丘駅構内二カ所のベギー置場の清掃を月一回、南出辺地区民生(児童委員)協議会婦人部の若崎敏子さんほか六名の方々
◇洗濯場のお手伝いに月二回、山坂五丁東町会婦人部より長谷川照子さん、上井光子さん、森田フミさん。
◇北病棟のお手伝いに月一回、(第三火曜)以前入園していた藤本真砂代さん。
◇入園児のためにマクラメ編み指導に川島雅江さん。
◇北病棟の在園児との関わりに岩城志門さんと橋口頼通さん。
◇北病棟のシャツ交換に、聖母整肢園当時から引続き現在に至るまで、毎週火曜日午前中、川口芳子さん。

園児に寄せられた温かい ご支援を心から感謝いたします

62・11・12
(敬称略)

〔本園〕 △寄附金▽まごころ会、

藍野医療技術専門学校看護科自治会、愛徳姉妹会、北病棟夏まつりがらくた市、東尾、退園児一同、親の会一同、卒園児一同、布施幸友、山村雅啓、西田辺民生委員会、

榊藤木工務店大阪本店、東住吉区民生委員会、中村恵、柴田三和子、重谷敏郎、青木久一、南田辺地区民生委員会、大原功、南田辺地区民生委員会、戸田銈美、南田辺地区民生委員会、東住吉区民生委員会、通園部親の会、吉井電気店、

竹下啓子、広江淳朗、大谷高等学校二年一組一同、南田辺地区民生委員会、青木久一、ふじちよう会、△寄贈品▽中野勝治、保田喜昭、高月正吾、萩原京子、凍魚会、パ

イオニア労働組合販売支部、社会福祉法人朝日新聞大阪厚生文化事業団、南一夫、大阪東住吉ライオンズクラブ、畑中晋一、中尾耕治、財造幣局泉友会、稲垣節造、寺尾昇、キリンビール㈱、大阪府玩具

人形問屋協同組合連合会、㈱日本魚肉ソーセージ協会、東住吉区民生委員会、近畿アイスクリーム協会、田中章雄、谷田章、廣谷建築

㈱、三金工業㈱、永岡一彦、東鱗会、大阪漬物味噌協会、大阪菓業青年クラブ、梅田地下センター商店街振興組合、南大阪療育園親の

会、大阪東住吉ライオンズクラブ、パイオニア労働組合販売支部、キリンビール㈱大阪支社、読売新聞大阪本社事業本部、大阪市民生局福祉部障害福祉課、牧隆雄、井上

浩一

〔あさしお園〕 △寄附金▽港区

善意銀行、大阪港ロータリークラブ、あさしお園父母の会、△寄贈品▽昭和61年度卒園児父母の会、キリンビール㈱大阪支社、大阪府玩具人形問屋協同組合、社

団法人日本魚肉ソーセージ協会、榊石田建鋼社、大阪菓業青年クラブ、是枝則夫、梅田地下センター商店街振興組合、大阪市中心卸売市場本場青果卸売協同組合、後藤商店

〔ゆうなぎ園〕 △寄附金▽港区善意銀行、△寄贈品▽キリンビール㈱大阪支社、大阪府玩具人形問屋協同組合連合会、林兼産業、大阪菓業青年クラブ、大阪生命保険協会生保連大阪連絡会、梅田地下

センター商店街振興組合、大阪市中心卸売市場本場青果卸売協同組合。

海外講演

一九八七年十一月一日から一週間、米国ワシントンにおいて「脳性麻痺児のコミュニケーション障害に対する神経発達学的治療アプローチ」の講習会に今川忠男訓練・通園部



長が招かれ講師をつとめました。これは一九七九年の米国内ノース・キャロライナでの「ベイビー・コース」、一九八一年のスイス・クールでの「リフレッシャー・コース」、一九八六年の米國ニューヨークでの「新生児に対する理学療法」等の講演に続いて四回目のことである。今回は、主にいわゆる言語療法士を対象とした講義内容であった。現在我が国ではこの分野は質量共に不十分で資格制度がないだけでなく教育制度も不完全な状態にあります。帰国後多くの療法士の指導や、両親指導にもその経験を生かして健闘中です。

△勤続十年表彰▽

▲白川和子(北病棟) ▲徳山道枝(歯科) ▲丸山浩一(事務部) ▲平尾久美子(通園部) 昭和六十二年五月六日 梶浦理事長より表彰状と商品券五万円、特別休暇十日が授与された。



当園で開催した講習会

- ◇ボバース・コース
昭和62年1月12日～3月13日
受講生：理学療法士・作業療法士・医師・言語療法士
講師：今川忠男・西脇美佐子・寺沢健他
- ◇「発達障害児に対するプレ・スピーチの評価と治療の実際」講習会
昭和62年6月15日～6月16日・8月30日～9月4日・9月8日～9月11日
受講生：理学療法士・作業療法士・言語療法士
講師：今川忠男
- ◇脳性麻痺児療育多職種講習会
昭和62年7月18日～7月19日・8月29日～8月30日
受講生：保母・看護婦・教員・指導員・医師・言語療法士
講師：今川忠男・関東佐智子・岸本光夫・彦田龍兵他
- ◇日本理学療法士協会長期講習会「脳性麻痺児の評価と理学療法の実際」
昭和62年8月17日～8月22日
受講生：日本理学療法士協会々員
講師：今川忠男・西脇美佐子他
- ◇日本作業療法士協会長期講習会「発達障害児の作業療法：神経発達学的治療アプローチを中心として」
昭和62年8月24日～8月29日
受講生：日本作業療法士協会々員
講師：今川忠男・岸本光夫・茂原直子・渡辺薫・石川国頼

◇近畿盲ろうあ難聴幼児通園施設協会研修会
昭和62年8月25日
受講生：訓練士12名。
近畿盲ろうあ難聴(幼)の施設協会からの要請で「聴能訓練をテーマとした現任訓練ということ」で第一日は当園にスポットが当たりました。去る八月二十五日 午前は三才児の公開訓練、午後は訓練に対しての質疑応答と補聴器についての講義と実習というプログラムで行いました。ハードスケジュールだったので肝心の質疑応答で十分ディスカッションがなされないうままに終わったことは当園として残念でした。

しかし一方、研修後に参加者からいろいろ意見・感想を頂きよい勉強になりました。
訓練の内容やテクニクがパターン化しないためにも外部研修の必要性を感じました。

職員慰安会

●本園
九月五日・十二日午後五時から二班に分れ「大阪市あびこ職員会館」(住吉区南住吉)に於て。
●分園
十月二日午後五時三十分から「木曾谷」(港区港晴)に於て。

全国火災予防運動週間



秋の全国火災予防運動(十一月二十六日～十二月二日)の一環として、昭和六十二年十一月三十日午後二時から大阪市東住吉消防署が本園で、真剣に見守る子供たちの前でスノーケル車の救助訓練、

秋の全国火災予防運動(十一月二十六日～十二月二日)の一環として、昭和六十二年十一月三十日午後二時から大阪市東住吉消防署が本園で、真剣に見守る子供たちの前でスノーケル車の救助訓練、負傷者の救助訓練、放水訓練が行われ意義のあるデモストレーションでありました。また、当園の職員、児童に対して適切な指導を受け終了しました。

自衛消防訓練の実施

昭和六十二年年度の自衛消防訓練が次の通り実施されました。
第一回
日時 昭和六十二年六月二十二日午後二時
(訓練内容) 通報訓練、避難訓練、消火訓練
第二回
日時 昭和六十二年十月十九日午後二時

(訓練内容) 通報訓練、避難訓練、放水訓練、消防訓練には、管轄の東住吉消防署の二名の係官が指導のため来園、訓練終了後、適切な助言を受け意義のある訓練が終りました。
しかし何よりも大切なことは「園より絶対に火を出さない」という、職員一人一人の自覚であると思えます。
**火災ゼロ
みんなの熱意と
心がけ**

駐車場の利用について

本来、園を利用される方に、提供する駐車場が、職員の自動車通勤により殆どが占められ、利用者からの苦情が相次いでいます。
従って、二月一日から園内駐車場の利用を許可制にし、各人の申請により園が妥当と判断した場合に駐車を許可し、許可証を発行することにいたしましたので協力をお願いいたします。なお不明の点は総務課まで。

ソフトボール大会

大阪三施設親善

この大会も回を重ねて十一回目を迎えました。
今回は、当園の当番で、十月三十一日(土)午後一時から開催しました。
前日夜中の雷を伴う大雨にもめげず、グラウンドコンディションも良好で当番施設としてホッと胸をなでおろした。



開会に先立ち大下園長から挨拶があり、早速三施設対抗の試合が行われ、なごやかなうちに、真剣に日頃の練習の成果(あまり練習していない...)を発揮し無事大会を終了しました。成績は次のとおり。

- △第一試合
大手前整肢学園24～16大阪整肢学院
 - △第二試合
南大阪療育園15～11大阪整肢学院
 - △第三試合
南大阪療育園17～6大手前整肢学園
- となり本園が見事に打ち勝ち通算五回目の優勝を遂げました。準優勝は大手前整肢学園。

園内行事

看護部

- 2月3日 節分と誕生会
- 2月14日 生活写真展
- 3月3日 ひな祭り、誕生会
- 4月24日 誕生会
- 5月15日 誕生会
- 5月23日 長居植物園遠足
- 6月19日 誕生会
- 7月7日 七夕祭り誕生会
- 7月25日 長居プール
- 8月7日 夏祭り
- 8月28日 キャンプ誕生会
- 9月18日 月見会誕生会



- 10月3日 運動会
- 10月17日 遠足(台風で中止)
- 10月30日 誕生会
- 11月7日 買物ごっこ(中庭)
- 11月27日 誕生会
- 12月7日 餅つき(中庭)
- 12月19日 クリスマス会
- 12月25日 誕生会

通園部

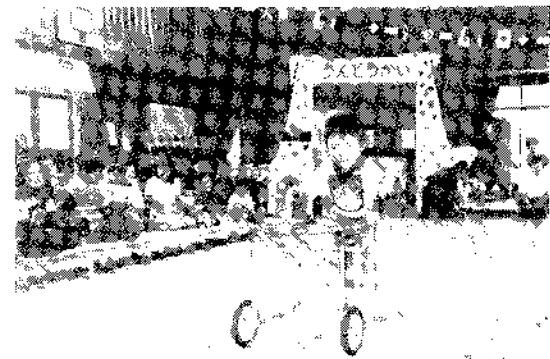
- 3月20日 卒園式
- 4月2日 入園式
- 5月21日 春の遠足(長居植物園)



- 8月1日 長居プール
- 9月15日 運動会(長居スポーツセンター)
- 10月13日 秋の遠足 ぶどう狩り
- 10月22日 秋まつり
- 11月5日 天王寺博覧会
- 12月22日 お楽しみ会(クリスマス会)

あさしお園

- 1月21日 もちつき大会
- 2月17日 お別れ遠足
- 3月20日 卒園式



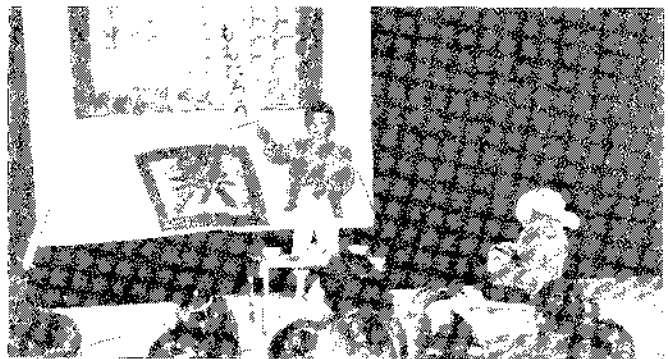
- 4月2日 入園式
- 5月12日 春の遠足
- 7月25日 夏祭り
- 8月22日 23日 キャンプ
- 9月20日 父親療育体験
- 10月18日 運動会
- 10月28日 秋の遠足(いもほり)
- 12月6日 生活発表会

ゆうなぎ園

- 1月10日 たこあげ大会
- 1月21日 もちつき大会
- 2月10日 雪遊び
- 5月15日 春の遠足
- 6月10日 大阪港めぐり
- 7月18日 19日 合宿
- 9月18日 秋の遠足(ぶどう狩り)
- 10月3日 運動会
- 12月20日 クリスマス会

臨床実習生・研修生の受入状況

- ▲昭和62年4月6日~5月27日
 - 。大阪府立盲学校理学療法学科 生 1名
 - 。清恵会第2医療専門学校理学療法学科 生 1名
 - 。行岡医学技術専門学校リハビリテーション科理学療法学科 生 2名
- ▲昭和62年6月1日~7月22日
 - 。藍野医療技術専門学校理学療法学科 1名
 - 。国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院理学療法学科 生 1名
 - 。神戸大学医療技術短期大学理学療法学科 生 1名
 - 。愛知医療学院理学療法学科 生 1名
- ▲昭和62年8月31日~10月21日
 - 。京都大学医療技術短期大学理学療法学科 生 1名



去る十二月二十日クリスマス会を開催しました。午前は生活発表会

- 。国立呉病院附属リハビリテーション学院理学療法学科 生 1名
- 。社会医学技術学院理学療法学科 生 1名
- 。国立仙台病院附属リハビリテーション学院理学療法学科 生 1名
- ▲昭和62年10月26日~12月19日
 - 。国立呉病院附属リハビリテーション学院作業療法学科 生 1名
 - 。国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院作業療法学科 生 2名
 - 。京都大学医療技術短期大学理学療法学科 生 1名
- ▲昭和62年7月27日~8月8日
 - 。鼓ヶ浦警察学校作業療法士
 - 。旭川療育園作業療法士
 - 。諫早療育センター言語療法士
- ▲昭和62年8月17日~8月29日
 - 。尼崎市立たじかの園理学療法士
 - 。心身障害児総合医療療育センター理学療法士
- ▲昭和62年5月11日~7月17日
 - 。浅香山病院看護専門学校7名

会、午後は茶話会を行いました。今年の生活発表会は、日頃来られない家族、幼稚園や他施設の先生に訓練成果を見て頂くために、又茶話会においては父母や縦の交流などを目的として日曜日に開催しましたので予想以上に来客があり喜んで頂いたようです。子ども達も練習不足にもかかわらず、各々の持ち場を精一杯発揮できたと思います。午後の茶話会では母親たちの出しもので子どもたちも大喜び、父親たちも日曜参観日とはちがいにラックスしてお互いになごやかな交流ができたようです。



- ▲昭和62年11月2日
 - 。大阪府立看護短期大学看護科 10名
- ▲昭和62年11月2日~11月14日
 - 。キリスト教保育専門学校 1名
- ▲昭和62年6月30日
 - 。堺市立あけぼの療育センター 1名
- ▲昭和62年11月25日
 - 。浪速短期大学保育科 3名
- ▲昭和62年7月20日~7月30日
 - 。大阪保育学院二部 2名
 - 。大阪保育学院一部 1名
- ▲昭和62年11月10日
 - 。奈良県立高井寮 1名
- ▲昭和62年11月16日~12月4日
 - 。浅香山病院看護専門学校 3名
- ▲昭和62年5月9日~7月20日
 - 。大阪産業大学附属歯科衛生士学院 3グループ 9名
- ▲昭和62年9月1日~12月25日
 - 。行岡医学技術専門学校歯科衛生科 9名

施設見学者一覧 (62・1~12)

- △神奈川県立三境養護学校
- △愛媛整肢療護園
- △大阪府貝塚市福祉事務所
- △大阪教育大学教育学部
- △大阪市教育研究会阿倍野支部
- △奈良県立奈良養護学校
- △国立療養所福岡東病院附属リハビリテーション
- △国立大阪病院附属看護助産学校
- △キリスト教保育専門学校
- △泉佐野学校教育研究会
- △四天王寺悲田院通園施設
- △寝屋川市立療育自立センター
- △行岡医学技術専門学校歯科衛生科
- △千葉リハビリテーションセンター
- △大阪府立桃谷高等学校
- △浪速短期大学保育科
- △大阪府立身体障害者福祉センター
- △堺市立神石小学校分校

編集後記

「葦」第三号をようやく発行することができました。編集委員一同日常業務が終ったあと、数回の編集会議を開き知恵を絞りあい、原稿集めとレイアウトに四苦八苦、何とか目的を達成しましたが満足して頂けるものかできなく、反省しております。次号からは職員のみなさんの声も掲載したいと考えておりますのでお気軽にご投稿下さい。折角の機会紙を大切に育てていき、少しでも皆さんの役に立つよう今後も紙面の充実に努力していきたいと思っております。